

取水量と補水量のバランスが関係者の奮闘と利用者の節水でなんとか取れている状態が2日連続しています。これは、BOSAIの視点で見た場合に大きな意味を持っていると思います。

湯水時の状況と災害時とは異なるものの、4,000世帯の規模で「数値化」「見える化」でき、しかも、温度差はまだまだあるとしても「節水」で回避できる可能性を持つ所まで効果がある事を示したからです。

断水予定世帯3,200世帯とそうでない800世帯は、通常分断されると予想される。3・11の時の計画停電時には、道を境に正に「明暗」が分かれた事を記憶されていると思います。

今回の湯水では、4,000世帯が同じ方向を向いて節水、周辺の河川からの補水活動で「雨ごい」ではなく、「人のちから」で現在の状況までもって来れた事は「地域力」を示した、と思います。

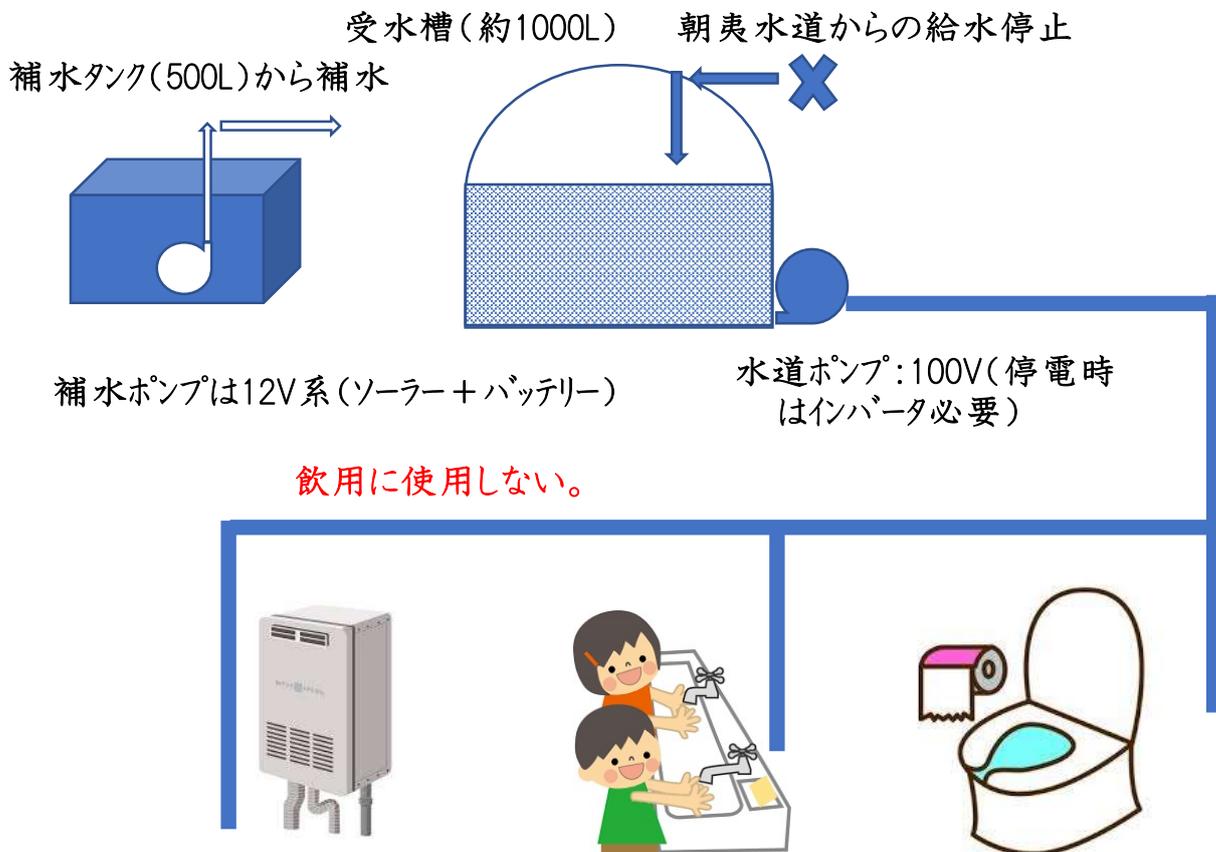
今週は、地域の全世帯に水と消毒用ジェルが配布されます。大井区は別の案内を一緒に出して、区としての姿勢を示します。(大井水道も湯水影響が出始まっています)

同時に、今後予想される大震災発生時の備えとして、「水の供給系統」の二重化を紹介します。これは、停電・断水・道路寸断・通信機能不全に備える上で最も優先されるべきだと思います。

この水の二重化の条件は、各世帯ごとにすべて異なります。

例1:みねおかいきいき館・第2体験館のトイレ・給湯機・手洗い用水

→ 食品衛生法上の制約のない部分を地域水道で補水



受水タンク+水道ポンプの組合せは「比較的災害に強い」と言えます。これに近いものを、各家庭で出来るか?が重要です。日常と非日常を分けない対策です。